



産地桐生を支えて百年 繊維専門の公設試験研究機関

群馬県繊維工業試験場

群馬県繊維工業試験場は県内繊維業界の振興・発展を目指し、繊維関連事業者を支援する県立の試験研究機関。大正4年（1915）、前身である桐生凶案調整所の設立以来、さまざまな沿革を辿り、昭和52年（1977）桐生・伊勢崎両繊維工業試験場を統合し、群馬県繊維工業試験場として桐生市に発足し、現在に至る。恐慌や戦争を乗り越え、100年に渡り地元の繊維産業を支え、現在も技術的な支援や相談業務などを通じて業界の発展に尽くしている。

国内繊維産業はここ十数年で輸入が加速し、国内衣料品の「輸入浸透率」が97%（2014年現在）という危機的数値を示す通り厳しい状況が継続している。一方で試験場が位置する桐生市は、県内繊維産地の中心であり、世界に通じる優れた技術と一連の関連業種が揃う技術集積地としてこの厳しい状況のなかでも健闘を続けている。

試験場では産地を支える事業者に対し「技術支援」「研究開発」「情報提供・人材育成」「産地課題への対応」の4本の柱を中心に支援に力を入れる。職員20人弱の小規模な組織でありながら、「企業の役に立つ研究開発」を目指し、職員自ら年間十数点の試作を行うなど積極的な資質向上に努め、研究数や特許等の出願件数も年々増加している。また、今年9月には信州大学繊維学部と連携・協力に関する協定を締結し、産業振興・学術研究の分野で相互に協力を図っていく。既にスタートを切った共同研究もあり、今後、連携を加速させ研究成果による社会貢献を目指す。さらに、富岡製糸場の世界遺産登録に伴い、県内繊維産業への高まる関心を活かし、新たな製品開発や販路拡大にも努めている。

試験場ではこの他にも、新分野への進出や補助事業の活用サポートなど多角的な支援を通じて、国際競争の荒波に直面する繊維事業者のために実質的に役立つ機関を目指し、産地存続という重大なミッションに取り組んでいる。



- 場所／桐生市相生町5-46-1
- 電話／0277-52-9950
- HP／<https://www.pref.gunma.jp/07/p20210016.html>